東日本大震災支援活動

これまで支援報告書を別に発行していましたが、今年から年間報告書やNPO法人ベルダレルネーヨのレターに他の活動とともに掲載することになりました。震災支援は今後も続けますので、これまで同様、応援やご協力をいただけますよう、心からお願い申し上げます。

2015 活動予定



温泉ご招待

4月26日 福島原発事故で避難されている方達を東鳴子温泉にご招待 復興支援ツアー ※秋にも企画しています!

3月28-29日 宮古市田老 わかめ収穫お手伝いツアー

5月16-17日 野田村 山ぶどうプロジェクトスタート立ち会い

9月26-27日 陸前高田市 椿の実収穫ツアー

野田村山ぶどうプロジェクト ワイナリー開設準備

野田村山ぶどうプロジェクト

2015年、長期支援としての仕事づくり第二弾、北岩手沿岸の野田村で特産の山ぶどうを活かした製品づくりに取り組むことになりました。主なアイテムはワインです。野田村の山ぶどうワインは既に製品化されていますが、近隣の葛巻町にあるワイナリーで委託醸造をしてきました。自分の村の山ぶどうを自分の村のワイナリーでワインにしたい・・・それは、震災前からの夢だったと、村長の小田祐士さんは言われます。

ネパリ・バザーロが野田村と出会ったのは、陸前高田市の復興支援で椿油を搾る製油所を作り、その維持のため椿油配合の化粧品「クーネ」を開発していた時のこと。その素材の一つとして「のだ塩」を使うことにしたからです。シャンプーや液体せっけんには塩を使います。それなら被災地の塩を使いたいと調べていく内に、「のだ塩」の存在を知り、その物語に衝撃を受けました。これまで20年以上関わってきたネパールのヒマラヤ地域で岩塩を産出する村の塩の物語と酷似していたからです。強く惹きつけられました。クーネには「のだ塩」を使いたいと強く思ったのです。

初めて野田村を訪問したのは 2013 年 10 月でした。津波で流され、高台に移転した塩工房を訪ねました。そして、海水を 4 日間も薪で煮詰めること、とても手間がかかり、しかも僅かな量しかできないことを知りました。これほど貴重な塩を化粧品に使いたいと言っていいのだろうかためらいまし

た。塩を製造しているのは第三セクター、(株)のだむらです。 責任者の外舘則男さんに恐る恐る趣旨を説明すると、即座に 「そういう製品なら是非」と快諾してくださったのでほっとし ました。

翌年6月に再訪した時、外舘さんから「これで化粧品をつくってください」と、山ぶどうのピューレを渡されました。 野田村が力を入れている農産物の一つが山ぶどうで、加工し 販路を拡大することに懸命であることを知りました。

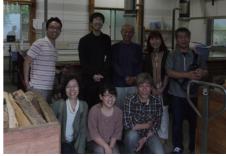
期待に応えたいと、山ぶどうのことを詳しく調べ、抗酸化作用があり老化を防ぐと言われるポリフェノールが一般のぶどうの数十倍もあると分かりました。化粧品にはもちろん向いていますが、化粧品だけでは使用量が限られ、野田村の山ぶどうの生産量を考えると先ず大量に使用し栽培農家に貢献











東日本大震災支援活動

できるワインを造り、その時に出る不要な部分で化粧品をつくることが一番よいと思いました。近年、国産ワインの品質が格段に上がり、日本で飲まれるワインに占める国産比率を上げ、日本らしいワイン文化を築こうとワイナリーが増えることが期待されてます。日本人の余暇の過ごし方が変わりつつあり、ワインツーリズムが盛んになっていくと思われる今、野田村に小さなワイナリーができ、オリジナルワインを造れたら、たくさんの人に野田村のことを知ってもらえ、訪れてもらえるでしょう。

2011年3月11日、野田村を襲った最大18mの津波によって約三分の一の住宅が大きな被害を受けました。尊い命、大切な財産を失っただけでなく、商店街、働く場、道路、漁港なども失い、村の受けた打撃の大きさは形容できないほどでした。

小田村長は迅速に復興し、人々の生命、生活を守るため、「安全・安心で活力あるむらづくり」を基本理念とし、2011年から13年を復旧期、2012年から15年を復興期、2014年から20年を発展期とする10年後を見据えた復興計画を立てました。その第三期の発展期にワイナリーづくりはまさに合致していると思います。

「亡くなった方達皆を知っています。顔が浮かびます。住まいや道路、港を再建するだけでは復興がなったとは思えません。村の将来を切り拓き、震災前よりよい村にしなければ犠牲になった方達に申し訳が立たない。ワイナリーがあればと思っていましたが、村だけでは実現が難しいと止められ前に進めることができませんでした。震災で出会った方達の応援を得て実現できたとしたら、犠牲になった方達のお導きですね」。山ぶどうプロジェクトとしてお手伝いを申し出ると、小田さんはしみじみと言われました。将来に希望がみえる、そんな村の様子が思い描けるようになるまで・・・残された方達にとっての復興は終わらないのだと思いました。

野田村には、鮭、ほたて、わかめ、塩などの海の幸、山ぶどう、福来豚(海藻や胡麻で育てる)、塩を運んだ赤牛が先祖の短角牛などなど豊富な食材があります。景勝地のリアス海

岸、塩の道を整備したハイキングコース、タイやネパールなどの生活雑貨が展示されたアジア民族造形館、南部曲がり屋の民宿などなど観光資源がたくさんあります。そこに、海の見える丘に建つワイナリーが加われば・・・

今年スタートの野田村山ぶどうプロジェクト を是非応援してください!











